

- 田邊一明：内科学第四講座教授 磯部 威：呼吸器・臨床腫瘍学講座教授  
内尾祐司：整形外科講座教授 椎名浩昭：泌尿器科学講座教授  
折出亜希：附属病院産科講師 三瀧真悟：附属病院神経内科講師  
川島耕作：附属病院消化器内科講師 森倉一郎：附属病院耳鼻咽喉科講師  
橋本龍樹：臨床看護学講座教授

### 1. 科目の教育方針

複雑な健康問題を持つ対象者に対して、高度な看護実践を行うために必要なフィジカルアセスメントの方法を、人体の構造と機能に沿って系統的に学習する。さらに、複雑な健康問題を有する事例の検討をとおして、系統的で総合的な臨床判断能力を培う。

### 2. 教育目標

- 1) 高度実践看護師として、系統的なフィジカルアセスメントを実践するための知識と技術を習得し、身体診察を正確に行うことができる。
- 2) フィジカルアセスメントから得られたデータを系統的・総合的に解釈し、アセスメントすることができる。
- 3) 事例を用いて、複雑な健康問題を持った対象者に対して系統的・総合的なフィジカルアセスメントを実践できる。

### 3. 教育の方法、進め方、評価等

#### 【方法と進め方】

\*人体の形態と機能に関する知識、フィジカルアセスメントの基本技術については習得済であること、また、予習・復習は自己学習であることを前提に授業を進める。

\*演習では履修者間でフィジカルアセスメントを実践するので、フィジカルアセスメントが可能な服装で参加すること。

- 1) 講義と演習を組み合わせ学習を進める。
- 2) 事例検討
  - (1)提示事例について、系統的・総合的なフィジカルアセスメント実践計画を立てる。
  - (2)上記(1)の計画に基づき、シミュレーター、もしくは、他の履修者を模擬患者として、問診と身体診察を実践して、反応をアセスメントし、健康問題を特定する。
  - (3)上記(2)の方法とプロセスの適切性について、メンバー相互で批判的に振り返りを行い、正確なフィジカルアセスメントの技法を習得する。

#### 【評価】

事例検討での質疑応答などの態度、事例検討をまとめた個人レポート等により、総合的に評価する。

### 4. 参考文献等(その他、授業の中で随時紹介する)

- 1) 福井次矢他日本語監修：ベイツ診察法 第2版. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2015

## 5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1		フィジカルアセスメント総論 フィジカルアセスメントの方法（問診技法・身体診察技法）	田邊
2		呼吸器系のフィジカルアセスメント 呼吸に関する人体の構造と機能	磯部
3		呼吸器系のフィジカルアセスメント 呼吸に関する身体診察	磯部
4		循環器系のフィジカルアセスメント 循環に関する人体の構造と機能	田邊
5		循環器系のフィジカルアセスメント 循環に関する身体診察	田邊
6		腹部のフィジカルアセスメント 消化器に関する人体の構造と機能	川島
7		腹部のフィジカルアセスメント 消化器に関する身体診察	川島
8		脳神経系のフィジカルアセスメント 脳神経系に関する人体の構造と機能	三瀧
9		脳神経系のフィジカルアセスメント 脳神経系に関する身体診察	三瀧
10		筋骨格系のフィジカルアセスメント 運動機能に関する人体の構造と機能、身体診察	内尾
11		腎・泌尿器系のフィジカルアセスメント 排泄に関する人体の構造と機能、身体診察	椎名
12		頭頸部、鼻腔、口腔、視覚、聴覚器のフィジカルアセスメント 感覚器に関する人体の構造と機能、身体診察	森倉
13		生殖器のフィジカルアセスメント 生殖器に関する人体の構造と機能、身体診察	折出
14		事例検討① 事例を用いたフィジカルアセスメント	橋本
15		事例検討② 事例を用いたフィジカルアセスメント	橋本